



2022年10月27日

NITE（ナイト）

独立行政法人製品評価技術基盤機構

北海道支所

# News Release

## NO チェック，NO リユース！ ～安全に使うための5つのチェックポイント～

### 1. 事故の発生状況

2017年度から2021年度までの5年間にNITE（ナイト）に通知された製品事故情報<sup>※1</sup>のうち、リユース品（中古品）<sup>※2</sup>の事故は、北海道内で合計14件発生し、全てが火災を伴う事故でした。

#### (1) 年別事故発生件数

年別事故発生件数を表1に示します。

表1 年別事故発生件数（2017～2021年度）

| 発生年度  | 合計 |
|-------|----|
| 2017年 | 4  |
| 2018年 | 3  |
| 2019年 | 4  |
| 2020年 | 1  |
| 2021年 | 2  |
| 合計    | 14 |

#### (2) 被害状況別事故発生件数

被害状況別事故発生件数を表2に示します。

表2 被害状況別事故発生件数（2017～2021年度）<sup>※3</sup>

| 被害状況    |      | 合計 |
|---------|------|----|
| 人的被害    | 死亡   | 0  |
|         | 重傷   | 0  |
|         | 軽傷   | 1  |
| 物的被害    | 拡大被害 | 8  |
|         | 製品破損 | 5  |
| 被害なし・不明 |      | 0  |
| 合計      |      | 14 |

(※1) 消費生活用製品安全法に基づき報告された重大製品事故に加え、事故情報収集制度により収集された非重大製品事故やヒヤリハット情報（被害なし）を含む。

- (※2) 本資料では、中古品販売店で購入したもの、インターネットオークション及びインターネット通販で購入した中古品、譲渡されたもの、中古住宅などに既設で設置されていたものなどを「リユース品」（メーカー等の専門業者による分解・整備・清掃された製品を含む）と呼びます。
- (※3) 人的被害と物的被害が同時に発生している場合は、人的被害の最も重篤な分類でカウントし、物的被害には重複カウントしない。製品本体のみの被害（製品破損）に留まらず、周囲の製品や建物などにも被害を及ぼすことを「拡大被害」としている。

## 2. 主な事故事例

### (1) 石油ストーブ（経年劣化による事故）

○2017年4月（北海道、40歳代・女性、使用期間約12年、製品破損）

事故内容：石油ストーブ（譲渡品）の排気管と断熱クロスが焼損する火災が発生した。

事故原因：長期使用（12年）により、ポット内で燃焼不良が起こり、内部に多量のすすが堆積し、すすに灯油が染み込んだため、使用時に異常燃焼を起こし、未燃灯油に引火して排気管と断熱クロスを焼損したものと推定される。

### (2) 石油給湯機（リコール対象製品による事故）

○2019年11月（北海道、60歳代・男性、使用期間約15年、拡大被害）

事故内容：異臭がしたため確認すると、石油給湯機（譲渡品）及び周辺を焼損する火災が発生していた。

事故原因：当該製品はリコール対象製品であり、部品に不具合（電磁弁に使用されているOリングが劣化して硬化、収縮）があったため、器具内に灯油漏れが発生し、引火、火災に至ったものと考えられる。

なお、使用者はリコール対象製品との認識はなかった。

## 3. リユース品使用時の5つのチェックポイント

- ① 製品がリコール対象製品でないことを確認する。
- ② 製造時から長期間経過している製品かどうかを確認し、不具合がないかをチェックする。
- ③ 取扱説明書を入手し、付属品が揃っているか、正しく取り付けられているか、正常動作に影響する汚れがないか、消耗品の交換が必要かどうかなどを確認する。
- ④ 消費者自らが修理・改造された製品ではないか確認する。
- ⑤ 非純正バッテリーの取り付けの有無を確認し、機器メーカーで禁止されていないか確認する。

## 4. 事故の実験映像について

事故の実験映像及び写真をご希望の場合は、下記の問い合わせ先までご連絡ください。

なお、映像をご使用の際、クレジットは「製品評価技術基盤機構+NITEのロゴ」としてください。

### （本件に関する問い合わせ先）

〒060-0808 北海道札幌市北区北八条西2丁目

札幌第1合同庁舎 4階

独立行政法人製品評価技術基盤機構 北海道支所

担当者：鈴木、佐藤

電話：011-709-2324